



ap bank fes'08 environmental report

環境報告書

2008.7.18 (前夜祭 eco-reso+)

2008.7.19/20/21

@ヤマハリゾート つま恋 (静岡県・掛川市)

ap bank fes は、エコ意識の共振・共鳴を意味する「eco-reso (エコ・レゾ=eco-resonanceの略)」をテーマに2005年から開催されている野外音楽イベントです。ap bank fes'08 では、3日間に8万1千人もの方が集まりました。イベントでは、なるべく環境に負荷をかけないよう、毎年、さまざまな取組みをすすめています。この環境報告書では、会場でおこなわれた取組みとその成果を紹介します。

食べること

ap bank fes では、環境にも食べる人にもやさしく、負荷の少ない食材をつかった飲食店が毎年数多く出店しています。のびのびと放牧されて育った豚のお肉や、農薬を使わず育てられた野菜たち、大地の恵みをいっぱい含んだ素材が、食べる私たちの体も元気にします。日本の食糧自給率の低下が叫ばれるなか、意識的に素材を選んで食べるのも大切な試みの一つ。たくさんある食材の中で、なるべく地元のもの、なるべく国産のもの、顔がみえるものを選んでいくことで、その生産者を応援することにもつながり、ひいては自給率のアップにもつながります。ap bank fesでも、地元の生産者の方々の出店を積極的に受け付けています。

フードエリア piha 飲食出店者

ミルク工房四季 by シックス・プロデュース
 SUNDALAND CAFE
 石窯で焼く天然酵母パンと焼菓子 Backstube
 山のハム工房 ゴーバル
 Cafe Obscura
 NPO 法人 きらり水源村*
 SPICE CAFE BIJA*
 野菜ソムリエのスープ屋さん kurumi
 SPIRAL DRIFTER CAFE
 井屋
 CANTIK

(* = ap bank 融資先)

FOOD AREA
piha

FOOD AREA
koti



フードエリア koti 飲食出店者

Very Berry	PRIMAL
石窯パンの専門店 ダーシェンカ	Vegekitchen
大地を守る会	菜食健美
さんさんファーム	Y・Yファーム
創作ぶっかけ讃岐うどん Bobby's Bar	かぶちゃん農園
ナチュラルフーズ 夢は正夢	フォレスト・ファーム
オーガニックチキンケバブ [NAP JAPAN]	麻ころ茶屋 Macocorochaya
バミューダ	YAFFA ORGANIC CAFE
インド料理マハッタ	NPO 法人 ポラン広場東京
白猫堂	有機茶の善光園
Cafe Pitwu	農業生産法人(有) えこふあーむ*
タコデリオ	NPO 法人 全国生産者会「結」*
代沢 FOODUARY	さんファーム*
麦とろ人	kurkku <<<kitchen
KUMINSOUL	

(* = ap bank 融資先)

買うこと

日々の生活のなかで、欠かせない行動の一つが「消費」。

お気に入りのみつけて一つのを長く使うことも一つのエコですが、使った後にどうなるかをきちんと考えて環境に負荷が少ない状態で廃棄されるものを選ぶのも大切なこと。

ap bank fes'08では、選んで買うということが実践できる雑貨店の出店エリアを koti market で展開しました。



フードエリア koti market 雑貨出店者

ぐらする一つ	エコ雑貨倶楽部
第3世界ショップ	ボディクレイ
株式会社オルター・トレード・ジャパン	ロゴナジャパン/ココウェル
ピープル・ツリー*	ワイルドツリー
クラフトリンク南風	わんのはな
ネパリ・バザール	エコマーケット
Slow Water Cafe*	帽子専門店 SIGN
NPO 法人 FHCY アジア障害者パートナーズ	kurkku <<< shop
天然雑貨屋ヒノデカニ商店	Renature & Lea Lani
はんこや ねこ	HIMALAYAN MATERIAL
メイド・イン・アース ～純オーガニックコットン製品と布ナプキン～*	Sipilica
	chahat

(* = ap bank 融資先)

FOOD AREA koti market



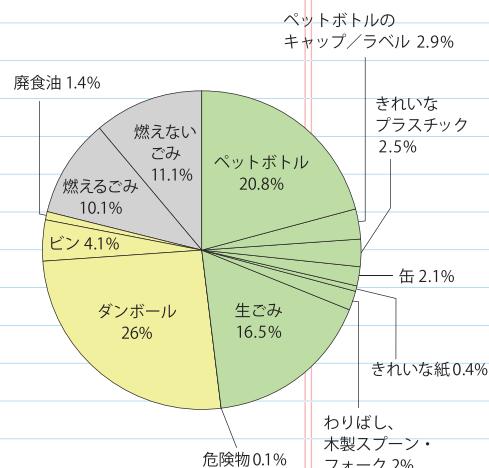
ごみのこと

ap bank fesでは初年度より、大型イベントとしてなるべく環境負荷を軽減するために、排出されるごみの抑制／分別／リサイクルを徹底しています。

ごみの13分別とその行方

1	ペットボトル (4,210kg)	▶ ケミカルリサイクルで分子レベルに分解し、ポリエステル原料化	▶ ポリエステル製品 (ペットボトルや繊維)
2	ペットボトルのキャップ/ラベル (586kg)	▶ 紙、木材と混合し固形燃料に	▶ RPF(固形燃料)
3	きれいなプラスチック (515kg)	▶ 紙、木材と混合し固形燃料に	▶ RPF(固形燃料)
4	缶 (426kg)	▶ 素材ごとに溶解し、再び鋼材に	▶ 缶、金属製品
5	きれいな紙 (79kg)	▶ 溶解し、パルプ原料化	▶ 再生紙
6	わりばし、木製スプーン/フォーク (412kg)	▶ 洗浄・破碎し、燃料チップへ	▶ 燃料チップ (サーマルリサイクル)
7	生ごみ (3,374kg)	▶ 水分と養分を調整	▶ ぶたの飼料
8	燃えるごみ (2,048kg)	▶ リサイクルできません	
9	燃えないごみ (2,241kg)	▶ リサイクルできません	
10	危険物 (17kg)	▶ 分別し、適正に処理	

イベントで出たごみの割合



出店者からのごみ

11	ダンボール* (5,260kg)	▶ 溶解し、パルプ原料化	▶ 再生紙
12	ピン* (830kg)	▶ 素材ごとに分別し、粉碎してカレット(ピンの原料)に	▶ ピン・ガラス製品
13	廃食油*(279kg)	▶ 精製し、バイオディーゼル燃料に	▶ BDF 燃料

* ごみの一部については、回収量・リサイクル効率を考慮し、当初のものからリサイクル処理方法を変更しました。

リサイクルされたごみ
 リサイクルされたごみ(出店者のみ)
 リサイクルされなかったごみ
 リサイクル率: 78.8% (昨年比 6.9% UP)

ごみを減らす取組み

出たごみをきちんと分別してリサイクルすることも、もちろん大事ですが、一番大切なのは、「ごみを出さない」こと。ap bank fes'07に続いて、ap bank fes'08でも、すべてのお皿とコップを繰り返し使うリユース食器にしたことで、紙皿、紙コップのごみをゼロにしました。これは、会場での沢山の方々の協力によって実現したもの。まず、お店で買ったご飯を食べ終わったらそのお皿やカップをキッチンと返却してくれた皆さんがいたこと、そして返却されたお皿とカップを一生懸命洗浄してくれたボランティアの皆さんがいたこと。こうして、リユースカップは1つを2.1回分、リユースディッシュは1つを1.4回分使用することができました。この他にも、オフィシャルサイトでマイ箸、マイカトラリーの持参を呼びかけ、多くの方にご協力いただいたことによって、わりばしやスプーン、フォークのごみの減量にもつながりました。



ごみを計量して、分析すること

会場では、なかなか表に見えにくい取組みではありますが、ap bank fesでは、2005年の開催からごみの計量を徹底しています。細かく分別をし、それぞれのごみが、どれくらい排出されたのかを知ることで、次の課題もみえてきます。分別を細かくすることで、1つでも多く「ごみ」から「資源」にできる品目をふやしたり、リユースできるものはリユースに取り組んだり、ひとつひとつ改善策を生み出していくことができます。この他にも、かさ張るペットボトルの運搬時にかかるエネルギーを考慮して、圧縮機を導入し、運搬のために移動する車両を減らすなど、可能な限り環境負荷を軽減できるようにしています。

ごみのこと -2-

side story: 回収されたごみのその後 (生ごみの場合)

【リサイクル行程】 生ごみ→豚のえさ(→豚糞→堆肥、肥料化)
有限会社ひがしぐるま/代表取締役 松浦隼人さん



オーガニックのご飯はおいしいね!

REUSE!



きちんと分別してくれてありがとう!

ap bank fes'08 で出た生ごみは、fes 会場からほど近い袋井市の有限会社ひがしぐるままで、豚のえさとして再利用されています。人間が食べるものは栄養価がとても高く、豚にとってもいいえさになるのだそうです。このえさを食べた豚の糞は、「もみがら」と雑菌を少し加えて堆肥にし、お茶やみかんを育てる栄養剤として使用されます。また、豚は 100kg ほどに成長すると出荷され、「豚肉」として私たちの食卓にのびります。

ひがしぐるまには、袋井市、掛川市、菊川市といった周辺地域から残飯が毎日運ばれてきます。収集、運搬によって二酸化炭素(CO2)が余計に発生してしまうのを避けるため、周辺地域での循環にこだわっています。集められた生の残飯は、スタッフの手で骨や卵の殻など、豚が食べられないものを取り除き、豚のえさとなります。分別がきちんとされていないごみは、残念ながら資源としての利用価値が下がってしまうので、ap bank fes'08 の会場でも徹底した分別をお願いしていました。残飯によく混入してしまっているものが「つまようじ」なのだそうですが、自分が食べ残したものを後で豚が食べると分かったら、つまようじと一緒に捨てなくなりますね。生ごみに限らず、そのごみが、どう処理されて何に利用されるのかを知ること、その分別の意味が見えてきます。「ap bank fes'08 で回収した生ごみは、年々、分別がしっかりできてきれいになっています。参加者の意識が私たちの想いと深くつながってきていることの表れかもしれませんね。」と松浦さんから嬉しい言葉をいただきました。ap bank fes の参加者、出店者ひとりひとりの行動が、こうして「食べものの循環」を生み出す大きな力になっています。

side story: 掛川駅でのごみ拾い

イベント期間中の3日間とイベント終了翌日の計4日間、今年もgreen birdによる掛川駅周辺のごみ拾いが行われました。今回は、朝、地元掛川のNPO法人掛川若者支援会のみなさんとの協働でのごみ拾いとなりました。fes会場内のgreen birdブースでは活動のPRとともに、来場した方にも掛川駅周辺のおそうじ参加を広く募集。翌日の朝には、地元の子供たちやこれからfes会場に向かうお客さんなど、各日およそ30人もの人々がごみ拾いに参加してくれました。お世話になる掛川駅に感謝の気持ちを込めてごみ拾い。途中でセミの抜け殻を見つけたり、競い合ってごみを見つけたり、とても気持ちのよいおそうじ活動となりました。



side story: ペットボトル自動回収機

フードエリアkotiの「think waste」ブースでは、ごみの取組みについて紹介するとともに、ペットボトル自動回収機を設置し、来場された方にペットボトルの新しい回収の仕組みを体験してもらいました。これは、自動回収機にペットボトルを入れるだけで、機械がペットボトルかどうか選別、分別をしたうえで破碎、減容してくれるスグレモノ。通常の1/8まで減容出来るので、ごみの運搬にかかるエネルギーを軽減することが可能になります。また、使用済みの飲料容器を生活者から直接回収できることから、環境を守り、循環型社会を実現するための身近なリサイクルの装置として注目されています。

※ペットボトル自動回収機はトムラ・ジャパン株式会社の協力で設置されました。



お米でできたごみ袋

ap bank fes'08 会場の入り口で配布していたごみ袋は、薄い茶色をしていて、お米の香ばしい匂いがしていました。実は、このごみ袋、古くなった備蓄米など様々な理由で食用に適さなくなった「古々米」を原料とした「バイオマスプラスチック」で作られています。燃焼カロリーが低いため焼却炉にも優しく、有毒ガスの発生がありません。また、通常のごみ袋に使用されているポリエチレンに比べ、CO2の発生量を30%削減できるのです。バイオマス資源が注目されるなか、食糧不足に悩まされている国があるにも関わらず本来食用のものを使うのではなく、「食用に適さない」ものを有効活用した、唯一の純国産バイオマスプラスチックです。

※バイオマスプラスチックはアグリフューチャー・じょうえつ株式会社の製品です。



匂いをかいでみてください!

エネルギーのこと -1-

～イベントで使われた電力について

ap bank fes'08では、1日に2万7千人を動員するライブエリア、3カ所のフードエリアとキャンプエリアをもうけていますもちろん、各エリアを朝から晩まで運営するためにかかるエネルギーも多大なものとなります。



ライブエリアでは、3日間でおよそ18,000 kWhの電力が使われました。これを、「グリーン電力証書」のしくみを使って、静岡市内の風力発電施設「風電君」で発電された電力でまかいました。グリーン電力証書とは、使用電力量を事前（もしくは事後）に算出し、その分を自然エネルギーでまかなかった場合の環境付加価値分を証書として購入する仕組みで、風力などの自然エネルギーで発電された電力を間接的に購入することが可能です。ap bank fes'08の会場となった、ヤマハ株式会社の所有するヤマハリゾート「つま恋」では、ap bank fesの開催をきっかけに、2007年から日本自然エネルギー株式会社を通じて「グリーン電力証書システム」を導入し、開催される音楽イベントにグリーン電力を活用していくことになりました。グリーン電力の導入によってつま恋では、年間50万 kWh、約230トンのCO2削減が見込まれています。

また、フードエリアとキャンプエリアで使用される発電機や、オフィシャルのツアーバス、掛川駅～つま恋間を走行するバスの燃料にはバイオディーゼル燃料を使用しました。これは使用済みのてんぷら油などの廃食油をリサイクルすることで作られた燃料で、ap bank fes'08では、およそ8,600リットルのバイオディーゼル燃料を使用しました。原油価格の高騰などで、近年注目があつまっているバイオディーゼルですが、同時に燃料用のトウモロコシやサトウキビなどによる食糧価格の高騰や、貧困地域での食糧問題などの問題が起こっているのも事実です。「環境にいい」だけでなく、それが他のところで「負荷」になっていないかを考えながら、エネルギーを選んでいくことも重要です。



エネルギーのこと -2-

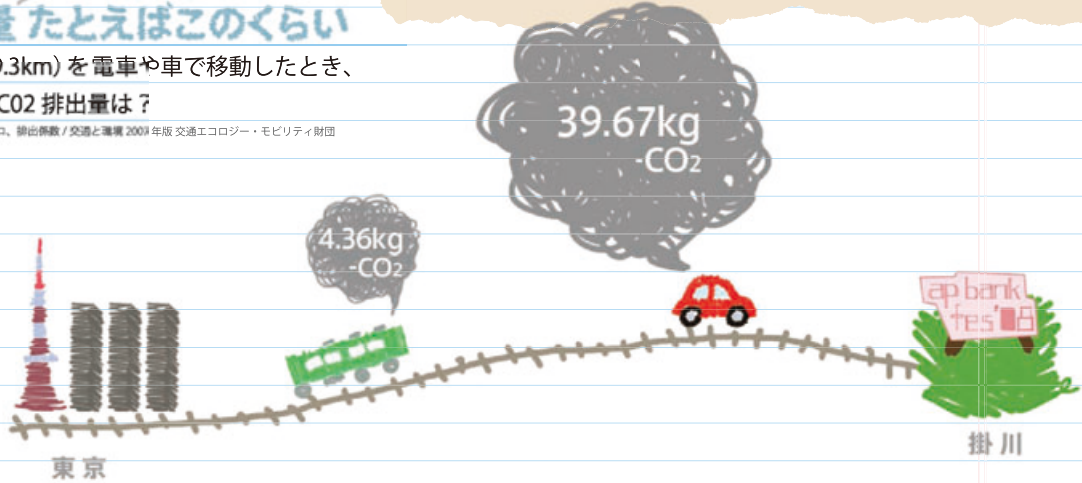
～カーボンオフセットについて

ap bank fes' 08には、1日に2万7千人、3日間で8万1千人のお客さんが、日本全国からおとずれました。電車に乗ったり、バスを使ったり、車に乗ってきたり、近くの人は徒歩や自転車、遠くからきてくれる方は飛行機に乗ったかもしれません。それぞれが、さまざまな交通機関を利用して会場に足を運びます。そこで発生するのがCO2です。

CO₂排出量 たとえばこのくらい

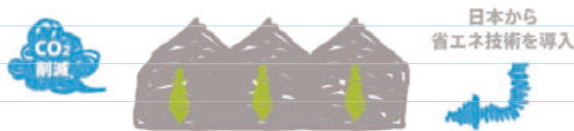
東京～掛川(229.3km)を電車や車で移動したとき、各1人あたりのCO₂排出量は？

出典：距離の算出 / JR時刻表(静岡駅口、掛川駅) / 交通と環境 2007年版 交通エコロジー・モビリティ財団



発生してしまうCO₂を、他の場所で自然エネルギーの利用や省エネなどを行うことで削減されたCO₂と相殺することを「カーボンオフセット」と呼びます。

ap bank fes'08でのカーボンオフセットのしくみ



ラオスのビール工場

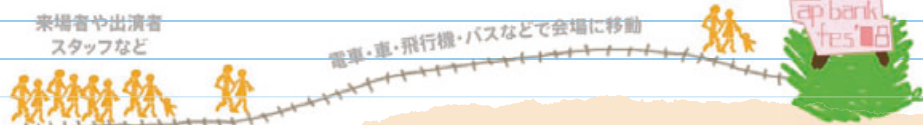
ビール醸造の熱源としてたくさんの重油を使っていたけれど…
重油の使用量削減と共に、CO₂の発生も削減!

Carbon Offset

カーボンオフセット

ap bank fes' 08が、この削減量をクレジットとして購入することで、交通機関の利用により発生した二酸化炭素(CO₂)を相殺することができます。

ap bank fes' 08では、来場者/出演者/スタッフ全員が移動のために交通機関を利用することで発生してしまうCO₂を、ラオス(ラオス人民共和国)で「ピア・ラオ」というビールを作っているビール工場で行われている省エネプロジェクトによって削減されたCO₂でオフセットしました。CO₂発生量は、来場者にチケット購入時にお答えいただいたアンケートや、出演者、スタッフからもアンケートをとり、2,423.7トンという結果になりました。



カーボンオフセットは、第三者機関から認証を受けることによって、正式に取引が行われた事が認められます。ap bank fes' 08では、右のような「カーボン・オフセットに関する第三者認証報告書」を受け取りました。



体験すること

自然とどう共生していくか、その恵みをどう生活に生かしていくかは、人々が長い時間をかけて得た知恵です。それを再び知ることは、私たちの生活をより豊かに楽しめるものにしてくれます。ap bank fes'08では、ワークショップとキャンプを通じて自然との共生について学びました。

ワークショップで感じること

ap bank fes'08では、自然の中で楽しめるワークショップとして、竹をつかった箸や楽器づくり、古布をつかったぞうりづくり、ヘンプやミツロウ、藍の葉など自然の素材を生かしたものづくり、自然観察会などを実施しました。自然の中で、目線や発想をすこし変えるだけで、どれだけ遊びをうみだせるか、知恵やコツを学ぶことができました。



ワークショップ出展一覧

- NPO法人 きらり水源村*「竹でなんでも作っちゃおう」・・・里山で不要になった竹を使ったお箸や楽器づくり
- NPO法人 いやし処ほのぼの「古布を活かして作ろう 布ぞうり」・・・地元のおばあさんに教わる古布を再利用したぞうりづくり
- +h. (plushemp)「編んで作ろう！ヘンプ（麻）アクセサリ」・・・栽培が簡単で生産性も高いヘンプを使ったアクセサリづくり
- ワイルドツリー「ミツロウキャンドル作り」・・・石油ではなくミツロウ（ミツバチが体の中で作り出すロウ）を使ったキャンドルづくり
- 渋温泉旅館組合 青年部*「eco-resoの風～オリジナルうちわ作り～」・・・竹をつかったオリジナルうちわづくり
- 宇佐美とよみさん「つま恋をパワーアップ！フェイス&ボディペイント」・・・イベントをさらに楽しくするカラフルなボディペイント
- kurkku <<< green「fes'08 グリーンのきおく」・・・藍の葉をたたいて染色するオリジナル手ぬぐいづくり
- 財団法人 日本自然保護協会（NACS-J 自然観察指導員）「つま恋自然観察会」・・・つま恋を舞台にした自然観察指導員との自然観察小旅行
- 渋温泉旅館組合 青年部*「足湯出張出前 @ ap bank fes'08」・・・信州渋温泉の新鮮な温泉で自然のエネルギーを感じてリフレッシュ
- OFFICE RELAXATION Relacle「Go around the WORLD☆からだで世界とつながろう」・・・さまざまな土地や風土から生まれたリラクゼーション体験

* = ap bank 融資先

自然の中で暮らすキャンプ

ap bank fes'08では、キャンプエリアをもうけて、初めてのキャンプを実施しました。500人の参加者が、3日間、自然の中で目覚め、過ごし、夜を迎えました。朝は、朝日で目が覚めて、夜になると星や月が思ったよりも明るいことや、虫の声、光にあつまると虫たちなど、普段の生活では気がつかない自然のリズムを感じることができました。電化製品も、便利なコンビニやスーパーもない生活で、戸惑うこともあるなか、いかに工夫して少ないものでシンプルに生活するかを考えているうちに、本当に必要なもの、本来の心地よさを感じることができた3日間になりました。



知ること

知ること、なにかを感じたり、さらに深く興味をもったり、誰かに伝えたくなったり、それがつながって新しい未来を生み出していくことができます。ap bank fes'08では、トークイベントやインターネットを通じて、新しい「eco-reso」を伝えていました。

ap bank dialogue

ap bank fes'08では、ap bank dialogueとして毎日、多彩なゲストをお招きして、さまざまなテーマのトークイベントを行っていました。「環境」というと、北極や南極の話、ツバルのような遠い島国の話がまず語られることが多いですが、実際にその場に行くけなくても、興味をもって知ることが、ひとつのアクションだと言えます。



ap bank dialogue 一覧

7/18 eco-reso+ (前夜祭)

「自然とつながる暮らし」 MC: KEN MASUI GUEST: 堀越哲美 (都市環境デザイナー) / ジョン・ギャスライト (エコロジスト)

「糸からつながる未来」 MC: GAKU-MC GUEST: 東野翠れん (写真家) / ラジッシュ・タンワー / DJ DRAGON (デザインディレクター) / 江良慶介 (kurkku)

「eco-reso+ talk」 MC: GAKU-MC GUEST: テリー伊藤 (演出家) / 小林武史

7/19

「つながる地球」 MC: GAKU-MC GUEST: 竹村真一 (文化人類学者) / 武田剛 (朝日新聞社カメラマン)

7/20

「星を感じてくらすこと」 MC: KEN MASUI GUEST: 鏡リュウジ (占星術研究者・翻訳家) / 佐治晴夫 (宇宙物理学者) / 石川直樹 (写真家)

7/21

「温暖化を伝えること」 MC: 王理恵 GUEST: 田中律子 (タレント) / 枝廣淳子 (環境ジャーナリスト)

eco-reso web 速報ステーション

ap bank fes'08では、開催前から特設ウェブサイト eco-reso web (www.eco-reso.jp)を設置して、国内外の様々なエコニュースや ap bank fes'08にまつわるエコなトピックをお伝えしてきました。開催当日の会場では、「eco-reso web 速報ステーション」として、ライブエリアと3つのフードエリア、キャンプエリアからなる会場の中で起きている様々な出来事取材、リアルタイムでウェブサイトにはアップしていきました。フードエリアで販売している商品1つをとっても、出店しているお店ひとつをとっても、来場しているお客さんのひとりひとりにも、それぞれのストーリーを聞くことができました。インターネットを通じて情報を手に入れることは、私たちの生活の中でとても身近な行動のひとつになっています。情報を知るといことは大切なことです。ただ、ひとつの事柄を知るときに、そこにつながる様々な出来事に興味をもつことで、ほんとうのことを知ることもできるかもしれません。



暑いテントの中で黙々と記事をアップするスタッフ



アップされた記事はPCや携帯から見ることができました



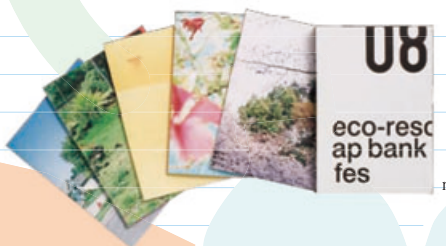
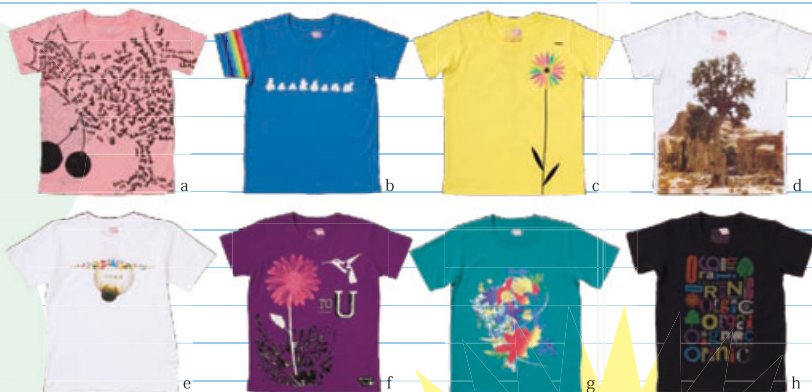
ゲストを呼んでのミニトークも盛り上がりました

オフィシャルグッズのこと

ap bank fes'08では、ap bankがコンセプトプロデュースを手がけた kurkku (クルック) がオフィシャルグッズの制作を行いました。kurkkuは、快適で環境にも良い未来へシフトしていくための消費や暮らしの在り方を考えるプロジェクトとして2005年に誕生しました。では、「環境にもよい消費」とはなんでしょう？ 実際に手にとってみてわかることも多いとおもいます。ap bank fes'08のオフィシャルグッズは、さまざまなクリエイターとのコラボレーションから生まれるメッセージと、素材からのメッセージ、新しい発見を届けたいという願いをこめました。

オーガニックコットン

実は、今、全世界で使用されている農薬の10%、殺虫剤の25%はコットン畑で使用されているそうです。インドでは、農薬などの購入資金のため借金に苦しみ自殺をする農民や、農薬や殺虫剤に汚染された飲み水(地下水)による健康被害も深刻な問題となっています。ap bank fes'08で販売されたTシャツ、マフラータオル、ハンカチタオルは、インドで栽培されたオーガニックコットンを、オーガニック認定を受けた紡績工場に糸にして製造しています。オーガニックコットンとは、3年間農薬や化学肥料を使っていない農地で栽培されたコットンのことをいいます。枯れ葉剤を使わないため、機械での収穫が難しく、ひとつひとつ手摘みで手間ひまかけて収穫されました。また、紡績、製造の過程でも、化学薬品の使用を最小限に抑えて製造しています。わたしたち消費者が、オーガニックコットンを選択し、オーガニックコットンを生産する農家を支援することは、地域の土壌汚染、水質汚染、食物汚染、労働者の健康問題などを改善していくことにもつながります。



携帯できる太陽のパワー

夏の野外フェスで一番大切で、一番の大敵でもあるのが、ゴラゴラと照りつける太陽の光。日焼けや熱中症などに苦しむこともしばしば・・・しかし、一番豊富なエネルギー源もこの太陽。ap bank fes'08ではこの太陽のエネルギーを携帯の電源にできるソーラーパネル付きの携帯ストラップをつくりました。太陽の光がある限りは、CO2の排出量はゼロのまま携帯電話を使うことができます。CO2削減への一番身近な一歩かもしれません。



あまったTシャツをリサイクル

昨年の ap bank fes'07 は、台風の直撃により3日間のうち、たった1日だけの開催となりました。3日分のTシャツは大量にあまってしまい、在庫のダンボールが山のような状態。いくらエコ素材でつくったTシャツだからといって、大量に捨ててしまうのでは、結局環境に一番悪いのではないだろうか？ そういう想いから生まれたのが、今年のキャップでした。Tシャツを細かく切り裂き、通常の綿糸と混ぜ合わせて糸として再生する技術をもった工場と出会い、その糸から厚手の帆布生地をつくりました。これが ap bank fes'08 のキャップとして生まれ変わりました。



ペットボトルのリサイクル

ap bank fes'08のエコバッグは、循環型リサイクルシステム「エコサークル®」から生まれた再生ポリエステル繊維でつくられています。この技術は化学的手法により、回収した素材を分子レベルまで分解し、その高純度の原料から再びポリエステルを作り出しています。分子レベルまで分解することで、染料などの不純物を細かく選別できるため、素材をムダにすることなくリサイクルできます。また、何度リサイクルしても新品同様の品質が保たれるのも特徴です。ポリエステルのリサイクルを行うことで、ゴミを削減し、新たな石油資源の使用を抑制することができます。また、石油からポリエステル原料を製造するのに比べてエネルギーの消費量、CO2の排出量はともに約80%の削減となります。

※「エコサークル®」は帝人ファイバー株式会社登録商標です。



- a ; ap bank fes Tシャツ (design: 森本千絵) b ; Bank Band Tシャツ (design: 箭内道彦) c ; eco-reso Tシャツ (design: エンライトメント) d ; nature Tシャツ (design: 石川直樹)
- e ; 治志奏逢 Tシャツ (design: 丹下紘希) f ; to U Tシャツ (design: 片岡良暉 (Realize)) g ; energy Tシャツ (design: Donny Grafiks (山本知久)) h ; organic Tシャツ (design: good design company)
- i ; キャップ (design: 森本千絵) j ; マフラータオル (design: 大日本タイゴ組合) k ; ハンカチタオル (design: 大日本タイゴ組合) l ; エコソーラーチャージストラップ (design: kurkku <<< design)
- m ; eco-bag (design: kurkku <<< design) n ; パンフレット (design: 中村知香子 (claque) / edit: 川口美保)

ap bank fes'08の収支について

(2009年1月現在)

ap bank fes'08の開催にあたって使用されたお金、そしてその収益は以下のようになりました。

ここで生まれた収益は、ap bankの行う融資活動の原資、及び、環境プロジェクト推進のための活動資金に充てられます。

収入

(消費税込み)

チケット収入	¥9,000 / 1日券	7月19日(土) 27,959枚 / 20日(日) 27,909枚 / 21日(月) 28,084枚	¥755,568,000
	¥14,000 / 1日券 + eco-reso キャンプ券	7月19日(土) 83枚 / 20日(日) 92枚 / 21日(月) 95枚	¥3,780,000
その他 収入	¥27,000 / 3日券	600枚	¥16,200,000
	¥32,000 / 3日券 + eco-reso キャンプ券	296枚	¥9,472,000
	物販	オフィシャルグッズ (10月までの通信販売含む)	¥98,314,841
	フードエリア収入	各フードエリア出店料、販売ロイヤリティ	¥35,666,892
	協力金	賛同企業 (大塚製薬株式会社、JR東海、ハイネケン ジャパン 株式会社、FeliCa ※50音順)	¥16,225,000
収入合計			¥935,226,733

支出

イベント製作費	ライブエリア	ステージセット、舞台監督、大道具、音響、照明、映像、特効、運搬など	¥184,573,336
		楽器テクニシャン人件費、楽器レンタル費、調律など	¥13,242,458
	フードエリア	テント、看板、運搬、音響、照明費	¥87,868,810
		出店管理経費・出店雑費・人件費など	¥20,269,878
	キャンプエリア	環境対策費 (ボランティア管理費、ごみ対策費、エネルギー対策費、トイレ管理費など)	¥22,405,120
		eco-reso camp 運営費	¥2,250,000
現地製作費		会場費、会場設営費 (プレハブ・仮設トイレ、看板など)、舞台設営費、会場外設営費、人件費など	¥88,798,993
		広告宣伝費、公演名義料、チケット販売手数料など	¥11,668,747
		移動費、車両費、シャトルバス、現地STAFF宿泊費など	¥56,744,295
		食事代・ケータリング代など	¥23,112,525
		アルバイト・警備員費など	¥84,265,967
		著作権使用料、運営雑費、花火、制作協力費など	¥24,490,147
出演アーティスト経費		出演者・ヘアメイク・スタイリストのギャランティー・交通費など	¥38,096,534
移動宿泊費		宿泊 (出演者・スタッフ・ボランティア・関係者など)	¥35,189,195
		移動 (出演者・スタッフ・ボランティア・関係者、レンタカー、市内移動費など)	¥5,983,626
イベント運営費		チケット販売手数料、広告デザイン費、チケットバンド、STAFF Tシャツ、その他制作物など	¥39,698,940
		中止保険、リハーサルスタジオ代	¥29,630,850
		取材諸経費 (ラジオ番組制作費、オフィシャルライター・カメラマン費、移動宿泊費など)	¥10,773,321
		諸経費 (備品、ケータリング費、雑費など)	¥5,782,373
支出合計			¥784,845,115

収支

収支 ¥150,381,618

※ 賛同企業とは、ap bank fes'08の趣旨に賛同し、ap bank fes'08のコンテンツ制作にご協力いただいた企業です。

※ 鳥籠舎は、企画・制作を担当いたしました。経費についてはスタッフの交通費、宿泊費分のみ計上となっております。

※ この収益の約45%は税金として納付いたしますので、残りの約55%の8,200万円相当をap bankの融資原資や持続可能な社会の実現を目指すプロジェクトの支援や推進のために使用します。なお、第9期融資には53件のお申し込みをいただきました。お申し込みいただいた案件は、ap bankメンバーの他、専門スタッフによる厳正な審査を行い、2009年1月末日現在で、15件の融資が決定しております。融資先の活動についてはオフィシャルサイト上でご紹介しておりますので、是非ご覧ください。 <http://www.apbank.jp/lending/index.html>

主催	ap bank
企画・制作	ap bank OORONG-SHA
賛同	朝日新聞社 大塚製薬株式会社 株式会社エフエム東京 (TOKYO FM) 株式会社エフエムナックファイブ (FM NACK5) 株式会社 FM802 株式会社 ZIP-FM 株式会社ハドソン 株式会社ベイエフエム (bayfm) コールマン ジャパン株式会社 佐川急便株式会社 THE NORTH FACE JR 東海 静岡エフエム放送 (K-MIX) 静岡新聞 静岡放送 (SBS) TOWER RECORDS ハイネケン ジャパン株式会社 バタゴニア びあ株式会社 フェリカネットワークス株式会社 ヤマハ株式会社
環境対策協力	A SEED JAPAN 市栄産業株式会社 株式会社エコネコル 株式会社エンヴァイロテック 株式会社グリーンシンク 株式会社セベック 株式会社トムラ・システムズジャパン・アジアパシフィック 株式会社日本スマートエナジー 株式会社パシフィックネット 近畿観光バス株式会社 帝人株式会社 東都観光バス株式会社 日本トイレ協会 フィリップ モリス ジャパン株式会社 プロアクトインターナショナル株式会社 三重交通株式会社 有限会社ひがしぐるま レコテック株式会社 ヤマカ株式会社
協力	掛川市 つま恋
運営	SUNDAY FOLK PROMOTION

ap bankについて

ap bank は、音楽プロデューサーの小林武史と、Mr.Childrenの櫻井和寿の2名に、Artists' Power (アーティストによる自然エネルギー推進プロジェクト)の発起人でもある坂本龍一氏を加えた3名が自己責任において拠出した資金をもとに、2003年6月に設立されました。現在はこの「ap bank fes」のように多くのアーティストの協力を得て行うイベントの他に、CDやDVDなどの制作物の収益金を活動原資としています。また、自然エネルギーをはじめ、環境に関するさまざまなプロジェクトに融資を行い、第9期(2009年1月末日現在)までに85件、2億9,587万5千円の融資を実行しています。

※ ap bankの融資の仕組みは、貸金業法に基づいています。(東京都知事(2)第28074号)